



— 発 行 者 —
福島県公立学校退職校長会
福島支部長 鈴木 昭 雄

— 編集広報部 —
— 題 字 —
第130号 高橋 藤園

教養と教育

福島県公立学校退職校長会
福島支部副支部長 星 浩 次

熱戦を繰り広げたサッカーワールドカップはスペインの優勝で閉幕しました。日本は強豪国と互角に戦いましたが、今回も決勝トーナメント一回戦の厚い壁に阻まれました。

日本チームを率いた森保監督は「凡事徹底」を掲げていました。チーム競技では、卓越した技量をもつ個の力はもちろん必要ですが、組織的な守備力・連携した攻撃力が勝ることもあります。当たり前のことを徹底してやり続けるよう指導することは大切です。四年後、更に進化したチームでの世界一への挑戦を応援したいと思います。

さて、今、教育現場では教員志願者が減少し教員不足の状況と言われます。全国の採用倍率は、近年最も高かった平成十二年に比べ、令和六年は小学校二・二倍（十一・五倍）、中学校四・〇倍（十七・九倍）でした。採用者数が減らないまま志願者数が減っている状況です。本県でも七月に実施された採用試験では小学校一・一倍、中学校一・九倍と低倍率でした。少子化に伴う若者人口の減少による社会全体の人手不足に加

え、本県では進学や就職により他都県へ流出したまま戻らない社会減もあります。また、教育現場の多忙化や保護者対応の難しさなどが強調されることにより、教職そのものの魅力が薄れ敬遠されている状況もあります。

未来を担う人づくりの基礎となる小・中学校教育充実のため、高い志と情熱をもつ人材を確保することは重要です。やりがいや生きがいをもてるような待遇面の改善を含めて、多くの学生が志願するような教育現場の一層の環境整備が求められます。

人生の各段階は「青春・朱夏・白秋・玄冬」とされます。精神的には一生青春でありたい、真赤な情熱あふれる時代に帰りたと思うものの、身体的には着実に白玄に進んでいます。「下り坂・老・病・孤」などの語も身近になってきました。

そのような中で、あえて希望をもって前向きに生きるため、「今日・用事がある（キョウウヨウ）」「今日行くところがある（キョウイク）」という日常を送ることを大切にしたいと思っています。

令和八年度(第六十二回)支部総会開催

令和八年度福島支部総会は、五月二十三日(土)福島グリーンパレスにおいて、来賓・顧問の皆様をお迎えし、約五十名の会員が出席して開催されました。

今総会には米寿の三瓶良一様・引地洲夫様、喜寿の洪佐常範様・横須賀広美様が出席され、鈴木支部長から長寿祝の記念品が贈られました。長寿者代表の引地様の謝辞、川俣町教育委員会教育長 佐久間裕晴様の祝辞をいただき、報告・協議に入りました。

議長に選出された福地敏教理事の進行で、県評議会の報告の後、令和七年度事業・決算報告令和八年度事業・予算案の承認に続き、渡部常夫氏の新監事就任が報告され、協議を終えました。引き続き、昨年度から始まった「クラブPR」。今年度は展示机の他にパネルやイーゼルを準備。万年青テニスクラブの記念誌、陶芸クラブの焼き物写真クラブ「フォトクラブ・T」の作品が展示され、写真クラブ



県大会報告

第六十回福島県公立学校退職校長会西白河大会が、六月九日(火)白河市のシン鹿島において行われました。当支部からは十一名が参加しました。

開会式後、白河市文化財専門研究員の鈴木功様による講演「史跡小峰城跡の地震被害から復興への姿」。崩落した石垣修復の復興作業は自らの復興そのものであったとお話が心に深く響きました。

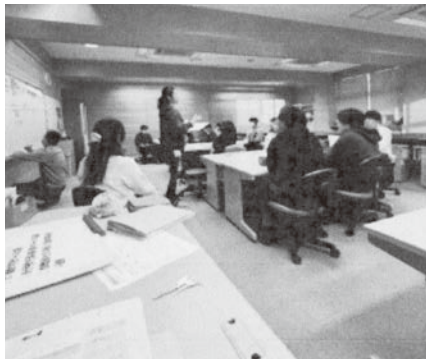
さらに昼食休憩後、安達・会津・相馬三支部の体験発表。いずれの発表からも、自らの個性や特性を発揮して地元教育や文化の振興に深く寄与されている状況が十分に伝わってきました。

大会を主管し、有益な機会をご提供いただいた西白河支部の皆様にご心より御礼申し上げます。

今、学校では 変化の時代に対応した学校づくり

福島地区小学校長会

会長 柏谷智也
(福島市立森合小学校長)



今、学校現場では、少子化や働き方改革の流れの中で、業務改善を進めつつ、教育活動の質をいかに維持・向上させていくかが大きな課題となつていきます。加えて近年は、猛暑や豪雨などの異常気象への対応、さらには熊の出没など、これまで想定しなかった安全確保の課題にも直面しており、学校の役割は一層複雑化しています。

とりわけ大きな変化は、ベテラン教師の大量退職と、新規採用教員の増加です。経験豊かな教員が蓄積してきた指導技術や学校運営のノウハウを、いかに次世代へ継承するかは喫緊の課題であり、研修の運営において

様々な工夫が重ねられています。

例えば、校内の異なる年代層の教員によりメンターチームを組織し、日常の授業を軸とした実践的な研修が進められています。若手教員が気軽に相談できる指導体制の整備や、学年・校務を越えた学び合いの場の設定など、組織的に人材育成を図る工夫も広がっています。また、新規採用教員の年齢にも幅があるため、一人一人の成長段階に応じた丁寧な支援を行うことで、早期に自信と力量を高められるよう配慮しています。

教師を志し、夢と希望を胸に教育の世界へ飛び込んだきた若い人材は、学校にとってかけがえのない存在です。その意欲を大切にし、安心して力を発揮できる環境を整えることが、これからの学校教育の充実にもつながります。今後も現場の創意と協働により、変化の時代に対応した学校づくりを進めていきたいと思います。

今、学校では 教師が感じて自ら動き出す研修

福島地区中学校長会

会長 菅野泰英
(福島市立福島第二中学校長)

福島市では昨年度よりChrome Book端末へ移行して業務を行ってきた。それに伴って本校では教師の教科等の専門性と指導力、及びICT活用指導力を含めた新たな課題に対応できる力量を高めるために校内研修を随時行っている。その一例を紹介する。

1 本校の現状(課題)

全職員が授業でICTを活用しているが、スキルの個人差が大きい。よって、ICT研修会を毎年テーマを変えて年間計画に位置づけている。

2 実践の概要

①昨年度、夏季休業前にChrome Bookへの個人設定に対して懸念する意見を耳にしていた。また、スキル差によって二学期当初の業務が遂行できなくなる可能性を感じ、ICT活用研修会を夏季休業明けに設定した。それを聞いた職員達も安心して、講師役をかつ



てでる職員も出てきた。内容は「Chromebookでの初期・個人設定と環境整備」である。Chromebookで個人ごとに設定したり、以前の環境のように使用できるようにしたりすることを目標とした。

②今年度は、生成AIの活用例(GeminiやCopilot)を研修した。文書作成や授業で活用している教員が活用例を発表し、全職員で共有した後、実際にプロンプト上で実践した。

3 成果と課題(○成果●課題)

○校長主導で今回のICT活用研修会を設定したが、職員間で懸念を感じるような発言を聞いており、現状を把握し職員のニーズを拾って設定することで業務の遂行の懸念を払拭できた。

○設定ができた職員が、設定ができない他の職員へ教える場面が見られ、職場の力(協働力)が推進できた。

●ICTスキルの個人差が大きく、研修会の内容や進行のオペレーションが難しかった。講師役の職員の臨機応変なアクションが功を奏し目的が達成できたが、もう少し組織的に対応できたと考えられる。

賀寿万歳

「石井健雄先生宅を訪問」

令和八年四月十七日、鈴木支部長、高橋事務局長、広報担当齋藤の三人で石井健雄先生宅を訪問。先生の奥様が茶道の稽古で使う茶室において、賀寿のお祝いをお届けしました。



今回の訪問に合わせて東京から来福されたご長男の奥様のお点前をいただきながら、先生のお話を伺いました。初任地、大塩中学校(現北塩原村立第一中学校)での日々や今も月三回程度通う万年青テニスクラブでの活動等々。広報担当もテニスで一緒にいますが、九十歳を過ぎてもお元気にプレーされる先生のお姿に感銘を受け、希望を感じています。

同期の皆様が少なくなりさみしさを感ずるとのことですが、先生の日々は、テニスで体を動かし、仲間の話を聞いて社会とのつながりを作ることと充実していることが実感できる訪問となりました。

今、学校では 探究学習の現在

高等学校長協会 県北支部長 丹野 純一
(福島県立福島高等学校長)

毎年二月に福島高校で開催している生徒研究発表会から、県北の子供たちの「探究」の一部をご紹介します。

本宮高校は日本一美味しい「石焼き芋」作りに挑戦するとともに、市内の有名店とコラボした新商品「カツカツひれバーガー」「ゼロ罪バーガー」の販売を実施し、本宮市の「食」の魅力を発信し、市の観光資源の一つとして定着させるとともに、県外からも多くの人を市に呼び込めるよう活動しています。

福島明成高校の「笑顔ふら○(わ)プロジェクト」では、ロスフラワーをリメイクした商品の開発・販売と地域交流を行いました。さらに、園芸福祉的な活用として、子供たちや障がいを持った方々など、誰でも参加できるワークショップを各地で開催したところ、五百名近くが参加しました。

高校によっては個人研究も盛んです。福島高校の生徒は、福島盆地内の八調査ポイントでの定点調査で五十三種の蝶類を記録し、蝶類群集の構造の解析を行っています。

福島東高校のある生徒は、昨今取り上げられる外国人問題か

ら関心を持ち、同じドイツニ映画でも国によって翻訳が異なることに気づきました。そこから、翻訳の相違には、国の文化や価値観が関連していると仮説を立て、実際の二作品(アナと雪の女王、塔の上のラプンツェル)の四か国(英語・日本語・フランス語・中国語)の翻訳を比較検討しました。

また、福島大学附属中学校は、生徒の発案を起点に中庭ピオトープを整備・管理し、生物多様性を体感的に学んでいます。校内コンテストや有志のピオトープ管理委員会を中心に主体的な活動を継続し、大学教員の専門的支援を受けながら環境再生に取り組んでいます。

福島大学附属小学校の児童は、福島市を盛り上げる空間を自分たちの力で考案し、福島市役所に提案する取組を発表しました。

このように、次期学習指導要領が目指す、一人一人の「好き」(興味関心)を育み、「得意」を伸ばしながらそれらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組が、高校を中心に既に広がりを見せているのです。

新入会員紹介

蓬萊 島貫 糸司

再任用を終え、本当の意味での退職を迎えたタイミングで、退職校長会に入会させていただきました。

今年度は時間にゆとりをもつて暮らすはずがそうはならず、昨年度までと同様に、初任研の研修コーディネーターとしてフルタイム勤務しております。各学校を回って六名の初任の先生方と研修を行う毎日は、それなりに充実しています。

西部A 佐藤 友子

今春退職し、現在は県PTA連合会に勤務しています。これまでとは違う立場から、子どもたちの健全な育成に携われることに喜びを感じる日々です。また、生活のリズムも変わり、親の介護はもちろん、家族旅行をしたり、ジム通いを始めたりと、充実した新生活を送っています。今までなかなか行けなかった海外旅行も計画中です。

飯野 佐藤 和彦

この春より「職階退職」により、新たに初任者研修の研修コーディネーターになり、大森小学校での生活が始まりました。勤務態様はフルタイム勤務なので、これまでの生活リズムと変わりがありません。変わったのは、校長ではなく、教諭として

勤務するようになったぐらいです。

新採用教員六名の研修コーディネーターとして、三ヶ月半が経ちましたが、四十年前の初任だった頃を思い出しながら、しっかりとサポートしていこうと日々取り組んでいます。

特別区 蓬田 孝夫

教職三十八年間は、子どもたち、保護者・地域の皆様、先輩や同僚の先生方に恵まれ充実した日々を送ることができました。この四月には、もう一つの夢の実現に向けて、大型二種免許取得、貸切バス会社への就職を果たすことができました。現在は、安心安全で快適な旅を提供できるバス運転士を目指し、研修の日々を送っています。歩みを止めず、一步一步前進して参ります。

清水B 青柳 茂宏

役職定年をもって退職し、現在は福島市教育委員会に部活動地域展開のコーディネーターとして勤務しています。今後段階的に休日の部活動が実施されるようになることを受け、学校部活動を地域の活動へ単に移行するのではなく、この改革を機に子どもたちが休日の過ごし方などを自由に選択できるように新たな活動環境の整備を目指し、日々部活動改革に奮闘しています。

清水B 小川 尚子

四月より福島大学人間発達文化学類教育実践コースの特任教

授として着任し、学部生及び大学院生の指導にあたっております。来年度には教育学部が再設置されることから、これまで以上に教育現場と直結した人材育成が求められることになりました。子どもたちの笑顔が輝き続ける未来のために、授業力・人間力・実践力を兼ね備えた教員を教育現場へ送り出せるよう、心を込めて教員養成に努めてまいります。

西部B 齋藤 靖

役職定年に伴い普通退職し、四月より伊達高等学校で再任用短時間勤務教諭として、授業のほかに進路指導部で求人や大学等の来客対応などをしております。授業を担当するのは十六年ぶりとなりましたが、ICTのみならず一人一台端末を活用した授業など、勤務していた学校での活用事例を参考にしながら授業研究の毎日を過ごしております。

北部A 金成 智子

昭和最後の採用者として十四か所の職場で勤務させていただきました。この間、高校籍ではありましたが、中高交流人事や行政に携わる中で、多くの校種の先生方や行政職の方々、生徒・保護者・地域の皆様方に助けていただき、何とか三十八年間教員生活を続けることができました。これまでも支えてくださったすべての皆様にお心より感謝し日々を過ごしております。

賀寿の皆様(満九十五歳)

(昭和六十四月二日、昭和七年四月一日生まれ)

笹谷 石井 健雄様
吾妻A 小室 昭様
中部 橋 浩二郎様

本年度から名誉会員の皆様

(昭和十一年三月三十一日以前生まれ)

特別区 大竹 寅八郎様
東部A 目黒 穆彦様
清水A 齊 藤 眞様
清水A 壹 岐 武 熙様
飯坂B 齋 藤 壽様

米寿の皆様

(昭和十四年生まれ)

宮代 川上 一男様
中部 三瓶 良一様
岡山 遠藤 忠様

喜寿の皆様

(昭和二十五年生まれ)

西部B 清水B 森 茂樹様
西部B 清水B 引 邦 夫様

蓬 菜 篠田 孝一様
飯坂B 佐々木 孝一様
南沢又A 南沢又A 小 松 隆 司様
西部C 西部C 富 田 義 勝 隆 司様
東部C 南沢又A 野 崎 修 司様
吾妻A 岡 山 哲 司様
岡 山 菅 野 晴 雄 司様
川 山 林 出 政 雄 司様
蓬 菜 高 橋 友 五 月 治 様
清水B 佐久間 橋 憲 月 様
西部D 勝 見 五 友 月 様
勝 横 須 賀 州 良 修 憲 月 様

本年度加入された皆様

(令和八年九月一日現在)

蓬 菜 島 貫 条 司様
西部A 佐 藤 友 子 様
飯 野 佐 藤 和 彦 様
特別区 蓬 田 孝 夫 様
清水B 青 柳 茂 宏 様
清水B 小 川 尚 子 様
西部B 齋 藤 尚 靖 子 様
北部A 金 成 智 子 様

◎ご逝去会員様

前号でお知らせできず申し訳ありませんでした。改めてお知らせいたします。

高荒 敏明様 合掌

令和八年度 福島支部役員(敬称略)

※太字は新任者

顧問

服部 秀文
大和田 紀男

支部長

鈴木 昭雄
鈴木 暉夫

副支部長

星 浩次
佐藤 和彦

監事

中川 洋子
渡部 常夫

県評議員

鈴木 昭雄
高橋 賢司

常任理事

事務局長 高橋 賢司
庶務 佐藤 喜彦

各支部理事

東部A 福地 淳一
東部B 今野 滋子
東部C 大越 一也
岡山 目黒 明彦

各支部理事

東部A 福地 淳一
東部B 今野 滋子
東部C 大越 一也
岡山 目黒 明彦

瀬上A 須田 尊
宮代 橋内 寛 司
西部A 高橋 逸 信
西部B 石川 逸 信
西部C 半澤 敏
西部D 栃久保 富雄
渡利A 黒澤 明
渡利B 佐藤 浩子
渡利C 大崎 孝一
南台 先崎 信雄
杉妻 三浦 光伊
蓬 菜 遠藤 嘉人
松川 菅野 信幸
北部A 佐藤 哲

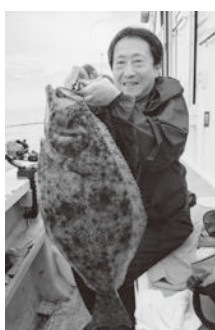
北部B 原 美子
中部 工藤 裕也
御山 高橋 正浩
清水A 小川 信子
清水B 横須賀 広美
南沢又A 山寺 精吉
南沢又B 佐藤 明彦
笹谷 尾下 峰夫
飯坂A 福地 敏教
飯坂B 根本 眞
吾妻A 我彦 武
吾妻B 亀岡 友博
飯野 塚野 薫
川 保 齋藤 悦子
特別区

釣りクラブ紹介

「ヒラメヒット!」

特別区 小川 裕

私が釣りクラブに入会して八年になります。はじめは初心者だった私も、先輩方より教えていただき、少しずつ釣果が増えてきました。思いに残っているのは、巨理の荒浜港から太平洋に出てヒラメを狙った時です。釣り場について、いざ針に生き餌のイワシを付け船長さんの合図で仕掛けを降ろします。しばらくするとググツという強い感触が竿を通して腕に伝わってきました。リールを力一杯巻いていくと、「やったあ!大物が釣れました!」いつもこのように釣れるわけではありませんが、釣りクラブの先輩方との釣りは今の自分にとって何よりの楽しみです。次回の釣り行きを楽しみに、ワクワクしている今日この頃です。



「やったあ!大物が釣れました」

退任挨拶

前常任理事 藁谷 和典

平成二十七年に前任の鶴沼先生から庶務を引き継ぎ、方部理

編集後記

事としての期間を含めると十二年間、支部の事に携わらせていただきました。その間、多くの役員や会員の方々との交流を通して知己を得、退職後の生活の幅を広げることが出来ました。元来出不精な私にとっては大変貴重な経験が出来たと、今改めて感じているところです。現在九十五を迎えた母の介護に追われていますが、時間がとれば、趣味の木工や釣り、ゴルフや実家の庭木の手入れ等、これまで手を抜いてきた事にも取り組むたいとも考えています。

でも妻は「ボケ防止のためにももう少しやっていてもよかったですの?」等とつぶやいておられます。



本号では新入会員の皆様の玉稿を掲載。昨年度は発行号数等削減のためお名前みの紹介でしたが、本号で復活。毎号悩みは尽きません。何を削って、何を盛るか……実はその時々単なる思いつきだったりして?とにかくこれから、会員の皆さんに読んでいただける紙面作りを心がけてまいります。